

4. 学会動向

フォーラム・研修会等参加報告

フォーラム・研修会名

平成 19 年度 教育改革 IT フォーラム

報告者名：中尾 浩

<開催概要>

開催日：2007年6月15日（金）～6月16日（土）

場所：明治大学リバティータワー

<報告内容>

午前の部では A-3「ファカルティ・ディベロップメントへの組織的取り組み—大同工業大学の場合—」を聴講した。

愛知大学と必ずしも競合関係にある大学ではないが、今後の厳しい大学経営時代を考えると、大同工業大学（以下、大同大と略）改革にもさまざまな示唆が含まれている。たとえば大同大では 1995 年にいち早く「教育重視型大学」への転位を全学的に合意したという。その上で、徹底した FD 改革に取り組んでいる。他大学が着々と改革を遂行している点は本学も大いに見習うべきことだと感じた。

ただし、ひとつ残念なのは、この改革が IT の活用とどの程度結びついているのかが明確ではないことである。もちろん、FD に IT を活用しなければならない必然性はないが、「教育改革 IT フォーラム」における報告であれば、IT の活用を聴衆は期待しているわけであって、発表内容と発表場所がいささかミスマッチであるとの感はぬぐいがたい。

午後の部では B-4「理工系教育における FD と IT 活用」を聴講した。理工系教育のセッションを選んだ理由はたいしたことではなく、本学からかなり多くの参加者がいて、昼休みにできるだけいろいろなセッションに参加しようかと相談した結果であったが、予想以上に有意義な発表であった。

発表者の上智大学理工学部の曾我部教授は機械工学の分野で著名な研究者だが、他方において教育改革においても活発な活動をされている。従来型の教育の問題点の整理から始まって、今後目指すべき教育の可能性について、非常に明快な発表であった。

小さなことだが、たとえば入学前教育ではビデオ教材の方が有効だが、入

学後はビデオよりネット教材（e-Learning）の方が有効である，といった指摘は，実際にさまざまな試行錯誤を繰り返した結果言えることであって，こうしたノウハウを蓄積して活用してゆくことの必要性がよく理解できた。

発表の中で曾我部教授は教材コンテンツの大学間共同利用の必要性について強調されていた。本学でも 08 年度からいよいよ本格的に e-Learning の導入・活用を目指しているが，他大学と教材コンテンツが共有できる日が一日も早く来ることを願っている。